

要綱第3号様式

事業者排出量削減報告書

(宛先) 京都市長		平成 28年 8月 10日					
報告者の住所 (法人にあっては、主たる事務所の所在地) 大阪市天王寺区上本町6-1-55		報告者の氏名 (法人にあっては、名称及び代表者名) 株式会社近鉄・都ホテルズ 代表取締役社長 二村 隆 電話06-6774-7665					
主たる業種	ホテル業				細分類番号	7 5 1 1	
事業者の区分	<input checked="" type="checkbox"/> ア 京都市地球温暖化対策条例第2条第1項第6号 <input type="checkbox"/> イ又はウ <input type="checkbox"/> エ						
計画期間	平成26年4月から平成29年3月まで						
基本方針	平成23年度から25年度の平均の排出量を基準に、平成28年度の温室効果ガス排出量を年平均5%削減する。						
計画を推進するための体制	毎月開催する総支配人会議およびミーティングにおいて、エネルギー使用状況を管理し、エネルギーの把握・削減に努める。						
温室効果ガスの排出の量	温室効果ガスの排出の量	基準年度 (23~25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	増減率	
	事業活動に伴う排出の量	19,496.5 トン	18,906.2 トン	18,811.7 トン	トン	-3.3 パーセント	
	評価の対象となる排出の量	19,644.8 トン	17,180.2 トン	17,085.7 トン	トン	-12.8 パーセント	
	実績に対する自己評価	継続的に節電に取り組んでいるが、客室稼働率が約10パーセント増加したことが排出量に影響している。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	事業の用に供する建築物の用途	原単位の指標	基準年度 (25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	増減率
	ホテル	事業活動に伴う排出の量 延床面積/10	1.36	1.32	1.32	トン	-2.94 パーセント
		事業活動に伴う排出の量 ()				トン	パーセント
		実績に対する自己評価	節電に取り組んだこともあり、目標を達成できた。				
重点的に実施する取組の実施状況		基準年度 (25)年度	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	備考	
		100.0 パーセント	104.0 パーセント	104.0 パーセント	パーセント		
具体的な取組及び措置の内容	(26)年度	空調やLED照明等の導入や、ソフト面での削減した。					
	(27)年度	空調設備へのインバーター導入、照明のLED化および空調設定温度管理等のソフト面で削減を実施した。					
	(28)年度						
通勤における自己の自動車等を使用することを控えさせるために実施した措置	措置の内容	マイカー通勤は原則禁止で、電車・バス等を利用するものとする。					
	上記の措置を実施した結果に対する自己評価	公共交通機関の利用を促進することで、自動車と比べてCO2排出量の減少をほぼ実施出来ていた。					
森林の保全及び整備、再生可能エネルギーの利用その他の地球温暖化対策により削減した量	区 分	第1年度 (26)年度	第2年度 (27)年度	第3年度 (28)年度	備考		
	森林の保全及び整備によるもの	0.0 トン	トン	トン			
	地域産木材の利用によるもの	0.0 トン	トン	トン			
	再生可能エネルギーを利用した電力又は熱の供給によるもの	0.0 トン	トン	トン			
	グリーン電力証書等の購入によるもの	0.0 トン	トン	トン			
	温室効果ガス排出量の削減又は吸収の購入によるもの	0.0 トン	トン	トン			
合 計	0.0 トン	0.0 トン	0.0 トン				
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	環境省「ライトダウンキャンペーン」への参加						
特記事項	・第一期期間の超過削減量5,178t-CO2を、26~28年度で毎年1,726t-CO2ずつ使用する。						

注 1 該当する口には、レ印を記入してください。特定事業者以外で自主参加される事業者の方は、レ印の記入は不要です。

注 2 「細分類番号」とは、統計法第2条第9項に規定する統計基準である日本標準産業分類の細分類番号をいいます。

注 3 「基準年度」とは、計画期間の前年度又は計画期間の前の三年度の事業活動に伴う排出の量又は原単位の数値の平均をいいます。

注 4 「増減率」とは、基準年度と比較した計画期間の平均の増加又は減少の割合をいいます。